

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立小松商業高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策) |
|---|---|--------------------|--|-------------------|---|
| 1 [進路希望の実現] 進路ガイダンスや企業実習などのキャリア教育の充実を図る。進路希望に応じたきめ細やかな学習指導により、進路実現を達成する。 | ① 進路希望者には、それぞれの志望先に応じた個別指導を行い、共通テストへの対応を検討し、希望進学先への進路実現を目指す。 | 進路指導課 3年 全教員 | 志望校への進学が実現した生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である | A 98.5% | 金沢大学1名、富山大学3名、公立小松大学1名、と国公立大学に5名の生徒が合格、私立大学では同志社大学に1名が合格するなど98.5%の生徒が志望校への進学を実現させており、指導の成果は概ね良好であった。今年度の進路希望者は約5割で、総合型・学校推薦型選抜への準備がほぼデジタル化となり、複数校受験するための丁寧な資料作成が必要であった。また、主体的な学びとして探究・体験・講座などを重視する内容が必要であり、リモートでのグループ面接や口頭試問など対策が今後の課題となった。 |
| | ② 求人確保、特に事務職求人増加、観光業やサービス業への理解を深める情報提供を図り、希望する業種、職種への進路実現を目指す。 | 進路指導課 3年 全教員 | 就職内定先に満足している生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である | A 97.4% | 県内企業において、昨年度より約100件増の求人(681件)をいただいた。今年度は全体の約5割の生徒が就職希望であり事務的職業に就いた生徒は36%と昨年の倍以上であった。今年の特徴として、新幹線の軟質延伸の効果を含め、サービス業と県外企業の就業希望者が、増加した。また、求人件数が多いため、応募前職場見学で事前に調べ、絞り込む期間が短いので早い段階から職種や業種など、担任・保護者と準備する必要がある。課題として、就職内定者の生徒には、企業や社会に貢献する力を身につけ、社会人基礎力を高めることが重要であると感じた。全体を通しては、本校の教育活動にご理解をいただいていると考えている。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | 就職に関して、生徒や保護者に企業選択のための情報提供をすると同時に学校としても今以上に企業についての理解を深め、就職指導を行って欲しい。また、就職先と生徒のミスマッチや生徒の適性を把握するために就職後の定着率の調査をして、就職指導に活かしてほしい。部活動を活かした進学に関して生徒の希望や適性をしっかり考慮してアドバイスしてほしい。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策 | 企業訪問等を利用して、卒業生が離職していないかの確認を行うなど定着率の調査を行う。部活動を活かした進学に関して、部活動の顧問と連携協力しながら情報提供できるようにしていきたい。 | | | | |
| 2 [社会人基礎力と人間力の育成] 基本的な生活習慣を基盤に、基礎学力と専門知識の習得を図り、社会人基礎力の育成を目指す。将来の社会人としての人間力を育成する。 | ① 生徒指導課と各学年団とが協力しながら遅刻者ゼロ運動を推進する。 | 生徒指導課 学年 | S T の無遅刻の日が A 150日以上である B 125日以上である C 100日以上である D 100日未満である | C | 出校日160日で無遅刻日115日、最大連続無遅刻9日(昨年度より9日減)(令和7年1月24日現在)達成。 各学年と協力連携しながら、生徒たちに適切に対応しながら指導を行うことができた。その中で不用意な遅刻者は22名と昨年より1名多い状況である。また複数回同じ生徒が遅刻することも増えた。今一度基本的な生活習慣を継続し徹底させていきたい。 |
| | ② 生徒自身が自ら率先して、あいさつができるように、教師からも生徒に率先してあいさつする。 | 生徒指導課 全教員 | 学校生活で積極的にあいさつが出来ていますか A 積極的にしている B している C あまりしていない D していない | A、B の合計 99% | 社会人基礎力向上に関する取り組みに合わせて、生徒自身が自ら進んで積極的にあいさつをしている生徒は多い。挨拶の励行は、学校の目標であることから教師側からも率先して取り組んでいる。 |
| | ③ 商業教育の質の保証として、資格取得の向上を図る。全商1級3種目以上取得者の増加を目指す。 | 商業科 外国語科 | 3年生の全商1級3種目取得者が A 60%以上である B 50%以上である C 40%以上である D 40%未満である | D 31.5% | 3年生の全商1級3種目取得者は30.3%であった。昨年度と比較すると約9%の減少である。授業評価アンケート等を活用し各教員が指導力向上に取り組む必要がある。また、家庭学習に取り組んでいると回答した生徒数が少ないことも要因として挙げられる。生徒の実態に合った家庭学習習慣を定着させる工夫を行い、基礎的な知識、技術や応用力の修得に努めていきたい。 |
| | ④ 不登校傾向の生徒や支援が必要な生徒及びいじめなどの早期発見・早期対応のため、教員間での生徒情報の共有と連携を図る。 | 教育相談課 全教員 | 生徒情報交換会を A ほぼ毎週、十分に情報交換を行った B 隔週程度で、詳しく情報交換を行った C ある程度(月に1回)情報交換を行った D あまり情報交換を行うことができなかった | B 15回実施 | 定期的に行った生徒情報交換会では、職員間の情報共有を図り、不登校等、支援が必要な生徒に対する早期発見とその対応において継続的支援を行った。また、職員研修の実施や各研修の共有により、教育相談の意義と方法を学び、よりよい生徒対応に活用した。未然防止教育の充実として、1年時における気づきシート・SOSの出し方講座、相談室だよりの発行等を、スクールカウンセラーと連携して実施した。相談室の環境整備にも務めた。これらの取り組みを来年度も改善、継続しながら安心して生活、相談できる学校にむけて推進していく。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | 保健室や相談室の役割は重要。生徒の話、相談をしっかり聞いてほしい。また、保護者との情報共有を行って欲しい。アンケートの結果では見えてこない生徒の心のケアが必要だと思います。S C の訪問回数や人数を増加して、対応することが必要。学校や社会でもいろいろ難しい時代であるが、生徒がこの学校でよかった、楽しかったと思える学校であって欲しい。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策 | 保健室や相談室の役割は多様化している。S C や外部機関等と連携協力しながら、担任も含めて学校として組織的に対応できるようにする。 | | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策） |
|--|--|-----------------------|--|-------------------------|---|
| 3 〔学びの質の向上〕 主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を進め、生徒の思考力・判断力・表現力を育成するとともに、新学習指導要領に基づいた評価方法についての研究を深める。また、GIGAスクール構想の取り組みを深め、ICTの利活用を促進する。 | ① GIGAスクール構想の実現に向け、教員のICT活用を促進する。 | 教務課 教科担任 GIGA担当 | 授業にICTを効果的に活用していますか A 効果的に活用している B ある程度効果的に活用している C あまり効果的な活用になっていない D 活用していない | A、B の合計 84.2% | 授業にICTを活用している肯定的評価が84.2%で昨年より少し減少している。効果的な利用へとシフトする中で、利用する教科・科目・単元等、場面が固定してきたのではないかと考える。また、生徒にChromebookが配付され、積極的に利用している中で、授業内での利用マナー等も考えて授業以外の利用が進んでいる。今後も授業の内容に適した効果的な利用を推進していくことを目指す。 |
| | ② 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を推進する。 | 教務課 教科担任 | 自分で考え取り組む場面や生徒同士が話し合う機会など生徒主体の授業が設定されている A とてもあてはまる B だいたいあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない | A、B の合計 91.2% | 積極的に授業に参加していると回答した生徒が93.8%、授業内容がわかると回答した生徒が93.1%であり、「生徒が能動的に活動する場面を設定している」との質問でも、教員の肯定的評価が91.2%である。今後は、主体的で深い学びを通して「知識・技能（技術）」「思考・判断・表現」を身に付けられるように授業を展開し、各教科・科目担当者や教科横断的な教員で授業計画・実施・検討しながら進める。また、評価方法についても検討し、改善していく。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ネット等で調べればわかるような知識だけではなく、地域と関わりながら行う活動を多くする等、探究の時間を充実させてください。全国の学校がどのような探究活動をしているのか生徒に情報提供して、主体的に探究活動に取り組めるようにしてください。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策 | 学習の質が向上するように授業を展開し、適切な課題や家庭学習、補習の体制も含めて自主的に学習ができるようにする。探究活動の充実を図るために年間計画を検討し実施する。 | | | | |
| 4 〔開かれた学校作り〕 商業高校として地域社会との連携を図り、地域の活性化に貢献する。学校の教育活動を、保護者をはじめ中学校や地域に積極的に情報発信し、開かれた学校作りを推進する。 | ① 部活動や各種委員会活動を中心に、地域との交流やボランティア活動への参加を推進する。 | 特活指導課 全教員 | 年間を通して地域のイベントやボランティア活動に参加したことのある生徒の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である | D 45% | 前期評価は、41%と好調であったが今年度の最終評価は45%と、昨年度から僅かに1%の増加に留まった。昨年度よりボランティアに参加する機会を増やしたが、同じ生徒が複数回参加する形になり、参加人数は増加したものの割合は増えなかった。アンケートでもボランティアに参加する機会がなかったと回答した生徒が38%いたことから、次年度はより多くの生徒が参加できるような工夫をする。 |
| | ② PTA活動など通じて、保護者に情報提供を行い教育活動の理解を図る。 | 総務課 全教員 | 学校からの情報提供が、教育活動を理解するうえで役立っている保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | B 75% | 例年行われるPTA総会では1年生の保護者の参加率が高かった。6月実施の3年生の保護者に対する進路説明会の参加率は62%、11月の教育ウィークに実施される1、2年生の保護者に対する研修会（参観）においても参加率は約45%と概ね良好で、12月の文化祭におけるPTAブースでも多くの保護者にご協力いただくことができた。今後さらに本校の教育活動を理解してもらうために、担任と連携を図りながら保護者が求める情報を掌握し、より効果的で役立つ情報を提供できるよう努めたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | 生徒が地域と関わる機会を増やして、いろいろな経験をさせてください。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策 | 町内会や児童センターなどと連携し、地域の生活に身近なボランティアを通して地域貢献していく。また、探究活動を通して地域社会についても理解し、将来地域社会に貢献できる人材の育成を考えていく。 | | | | |
| 5 〔効果的・効率的な学校運営〕 石川県教員育成指標のステージに応じた資質・能力を高めるとともに、校務の効率化・平準化を意識し、働き方改革を進める。 | ① 職員がワークライフバランスを意識して計画的かつ効率的に業務を遂行する。 | 全教員 | 5日間以上の年休取得をした教員の割合が A 100%である B 80%以上である C 60%以上である D 60%未満である | B 86% | 昨年度の最終評価が77%、今年度前期までに36%、今年度の最終評価では86%の年休取得率が少しく増加している。次年度へ向けて、年休の取得がしやすい環境の整備や該当する教員への声掛けを行い、ワークライフバランスを意識して、すべての教員が5日間以上、年休取得できるようにさらに改善する。 |
| | ② 石川県教員育成指標のステージに応じた資質・能力を高め、校務の効率化・平準化を実現する。 | 全教員 | 今年度、校務の効率化平準化が進んだと思う A そう思う B ややそう思う C あまり思わない D 思わない | A、B の合計 60% | 昨年度後期42%、今年度前期の50%と比較すると年々平準化が進んだと感じる教員が増加している。しかし、時期や業務内容によっては、校務の偏りを感じることもあり、今後は、より業務内容の精査を行い、必要のない作業の削減や協働体制の構築やICTの活用など効率的な業務の遂行ができるように改善を行っていく。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | 民間企業では、休暇等の制度を理解して活用している。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策 | 年休が取得しやすい職場環境を確立していくとともに、休暇制度について校内研修等で理解を深める。 | | | | |